

白山遺跡Ⅲ

2007

深谷市教育委員会

白山遺跡 III

2007

深谷市教育委員会

序

埼玉県北部に位置する新深谷市が誕生しました。市域の南は比企丘陵と接し、北は利根川を挟み群馬県と接しています。この広大な市域の間を荒川という国内でも有数な大河川が貫流しています。

こうした豊かな自然環境のもと、古代人の暮らした足跡が埋蔵文化財として今なお多く眠っています。なかでも、縄文時代草創期の土器を出土した西谷遺跡をはじめとして、再葬墓で著名な上敷免遺跡、県指定史跡の鹿島古墳群、棟沢郡家正倉跡と想定される「中宿古代倉庫群跡」や国指定重要文化財「綠釉手付瓶」を検出した西浦北遺跡など、重要な遺跡が多数存在します。

今回報告する白山遺跡においては、昭和45年～47年にかけて大規模な発掘調査が実施され、古墳跡24基、奈良～平安時代の竪穴住居跡90軒余をはじめとして、中世の居館跡なども検出され、注目を集めました。特に、2号墳から出土した女性埴輪4体は、ほぼ原型を留めた貴重なものであり、市指定文化財となっています。

本報告書は、事務所建設に先立ち平成7年に実施した白山遺跡5次調査の成果をまとめたものです。掘立柱建物跡3棟余りの調査でしたが、白山遺跡の性格を考える上で貴重な資料を追加することができました。本書が学術・教育関係はもとより、文化財の保護・保存の啓蒙・普及を図る資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成まで、多大なるご理解とご協力を賜りました関係各位・諸機関に心より御礼申し上げます。

平成19年3月

深谷市教育委員会

教育長 猪野幸男

例　　言

1. 本書は、埼玉県深谷市普済寺および岡里に所在する白山遺跡の、平成7年度に実施した第5次発掘調査の成果をまとめたものである。
2. 文化財保護法第57条の3第1項に基づく事業者宛の指示通知は、次の通りである。
平成7年11月29日付　教文第3-452号
3. 文化財保護法第57条第1項に基づく発掘調査の通知は、次の通りである。
平成7年11月29日付　教文第2-146号
4. 発掘調査は平田重之が担当し、平成7年11月27日～平成7年12月15日にかけて実施した。
5. 出土品の整理及び実測・観察表作成は、竹野谷俊夫が行った。
6. 図版作成は、宮本直樹・竹野谷俊夫が担当した。
7. 本書の執筆は、宮本直樹が行なった。
8. 本書に掲載した資料は、深谷市教育委員会が保管している。

凡　　例

1. 発掘調査位置図は岡部町都市計画図（1/2,500及び1/10,000）を、遺跡分布図は国土地理院発行『本庄』（1/25,000）を使用した。
2. 遺構実測図は、現場では基本的に1/20、カマド実測図を1/10とし、本書掲載の段階で1/60及び1/30とした。遺物についても、基本的に1/3で掲載した。
3. 図中の方位は、座標北を示す。
4. 遺物観察表の数値に（ ）のあるものは推定値、《 》のあるものは残存値を示す。残存率は、図示した器形に対する大まかな残存程度を%で示した。
5. 土層断面図及びエレベーション図のスクリーントーン（斜線）は、地山を示す。また、図中の数値は、標高値を示す。
6. 遺構実測図中の英数字は、以下を表す。
SB 堀立柱建物跡　SK 土坑

目 次

序

例言・凡例

目次

I 発掘調査の経緯及び経過.....	1
1. 発掘調査の経緯.....	1
2. 発掘調査・整理報告の経過.....	1
3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織.....	3
II 遺跡の地理・歴史的環境.....	4
1. 地理的環境.....	4
2. 歴史的環境.....	4
III 発見された遺構と遺物	6
1. 白山遺跡の概要.....	6
2. 発見された遺構と遺物.....	6
IV 調査成果のまとめ	9

挿 図 目 次

第1図 白山遺跡の範囲.....	2	第7図 3号掘立柱建物跡実測図.....	9
第2図 白山遺跡5次調査地点.....	2	第8図 1号土坑実測図.....	9
第3図 周辺の遺跡分布.....	5	第9図 1号土坑出土遺物実測図.....	9
第4図 白山遺跡5次調査全測図.....	7	第10図 白山遺跡5次調査周辺遺構図.....	10
第5図 1号掘立柱建物跡実測図.....	8		
第6図 2号掘立柱建物跡実測図.....	8	写真図版1 白山遺跡5次調査全景、出土遺物	

I 発掘調査の経緯と経過

1. 発掘調査の経緯

埼玉県北部に位置する深谷市は、埋蔵文化財の宝庫として古くから知られてきた。なかでも、绳文時代草創期の遺跡として有名な西谷遺跡や、弥生時代の再葬墓を検出した四十坂遺跡、重要文化財「縄文手付瓶」を出土した西浦北遺跡など、著名な遺跡が多い。

白山遺跡は、JR高崎線岡部駅の北東に位置する。県道蛭川普濟寺線と国道17号線に挟まれた範囲であり、東西680m、南北500mを測る。遺跡の西境には埋没谷が存在し、その西方には初期説家と想定される熊野遺跡が展開する。

白山遺跡の発掘調査は、工場建設に先立ち昭和45年に埼玉県教育委員会により実施されたのが始まりである。約7,000m²におよぶ調査の結果、奈良～平安時代の掘立柱建物跡4棟、80軒以上の大穴住居などが検出され、多数の土器類や鉄製品が出土した。

47年には、团地造成に伴い1次調査地点の北側40,000m²の範囲が調査され、古墳跡24基（円墳23、帆立貝式1）、古墳～平安時代の大穴住居跡6軒が検出された。埴輪には人物埴輪や器物埴輪をはじめとして、多数の円筒埴輪などあるが、なかでも巫女と想定される女性埴輪5体がほぼ完形で出土したのは特筆される。さらに、方形に巡る区画溝を有する中世の館跡や掘立柱建物跡も検出された。

その後も、工場やアパート建設、個人住宅建築などに先立ち、発掘調査が随時実施されてきた。

今回報告する発掘調査は、アパート建設に伴い平成7年に実施したものである。

まず、平成7年10月17日に、(株)ナチュラルメイトの会 代表取締役 木村富男氏（以下、「事業主」と記す）から旧岡部町教育委員会（以下「町教委」と記す）に、埋蔵文化財の所在についての照会があった。町教委では、埋蔵文化財包蔵地図により開発予定地が白山遺跡の範囲内であること、遺構の存在の有無を確認するための試掘調査を実施する必要があることを書面にて回答した。その後、事業主から試掘調査依頼書が提出されたのを受けて、10月18日に試掘調査を実施したところ、掘立柱建物跡などを確認した。

これをふまえて、町教委と事業主とで協議を重ねたが、工事の変更是不可能であり、遺跡の破壊は免れないことが確実となった。このため、記録保存のための発掘調査を岡部町遺跡調査会が実施することで調整を進めた。事業主もこれを了承し、平成7年11月21日付けで文化財保護法57条の第2項に基づく埋蔵文化財発掘の届出が、町教委を経由して文化庁長官宛に提出された。

これを受けた岡部町遺跡調査会では、文化財保護法57条の1に基づく埋蔵文化財発掘調査の届出を所定の手続きを経て文化庁へ提出した。

埋蔵文化財発掘届に対する事業者宛の指示通知は、平成7年11月29日付け教文第3-452号においてなされた。

実際の発掘調査は、平成7年11月27日に開始し、同年12月15日まで実施した。

2. 発掘調査・整理報告の経過

(1) 発掘調査の地番及び遺跡番号

白山遺跡の埼玉県遺跡登録番号は、Na63-008である。

調査区の地番は、深谷市普濟寺字前耕地1391-1、1391-9、1392-2番地である。

今回報告するのは、白山遺跡における第5次調査にあたる。

(2) 表土除去

発掘調査は、平成7年11月27日から着手した。作業は、まずバックホーによる表土除去から始めた。

表土から30～50cm掘り下げるごとに黄褐色ローム面が表れたので、これを遺構確認面とした。

全ての作業を終えるのに、1日を要した。

(3) 遺構確認・基準点測量

表土除去に引き続き、翌6日には調査補助員が調査現場に入り、遺構確認作業を実施した。その結果、掘立柱建物跡3棟とピットを確認した。

遺構確認状況の写真撮影の後、遺構の掘り下げを開始した。



第1図 白山遺跡の範囲



第2図 白山遺跡5次調査地点

(4) 遺構掘り下げ及び図化作業

遺構の掘り下げは、調査区西端から始めた。

遺物の出土は少なかったが、極力原位置を保つようにし、出土状況の写真撮影を行い、その後1/20の縮尺で図化した。

なお、基準点測量については、株式会社東京航業研究所に委託して、実施した。

遺物を取り上げた後、掘り下げを実施した。各遺構が完掘したところで、順次東方の遺構へ移動していく。

全ての掘立柱建物跡やピットの掘り下げが終了した時点で、調査区全体の写真撮影を実施し、その後に全測図を作成した。

調査の全工程が終了し、機材やプレハブ等の撤収が完了したのは、平成7年12月15日のことであった。

(5) 整理・報告

発掘調査で検出された遺物の水洗・接合は、平成18年7月より開始した。これと並行して、図面の整理作業を行なった。遺物の実測は平成18年12月に行い、終了後に写真撮影を実施した。翌19年1月以降、図版の作成と原稿の執筆を行い、印刷を開始したのは2月のことであった。

報告書の印刷が完了したのは、3月30日の事である。

3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織

(1) 発掘調査（平成7年度）

岡部町遺跡調査会会長	丸山 忠雄
文化財保護室長	駒宮 史朗
文化財保護室次長	米沢 信夫
主任	中野 弘
主任	鳥羽 政之
主任	平田 重之
"	宮本 直樹
臨時職員	竹野谷俊夫

発掘調査参加者

大野 ハツ	大野カネ子	岡 和夫
小暮 長治	小暮 雄一	斎藤 好江
波沢 ヤイ	高橋ちよ子	田嶋 律子
田中 秀子	橋本 純子	長谷川カネ
畠山せつ子	平野イキ子	根岸 達夫
根岸 弘子	三浦 フミ	山田 勇平
矢内 忠良		

(2) 整理・報告書刊行（平成18年度）

深谷市教育委員会教育長	猪野 幸男
教育次長	古川 国康
次長	中村 信雄
同郷部教育事務所所長	柳田 一郎
課長補佐	鈴木八十子
主査	金井登美子
"	根岸 宏
"	鳥羽 政之
"	森田 富雄
"	宮本 直樹
臨時職員	竹野谷俊夫
"	黒澤 恵
"	佐藤 由江
"	布施みゆき

II 遺跡の地理・歴史的環境

1. 地理的環境

白山遺跡は、埼玉県深谷市普濟寺字白山他に所在する。JR高崎線岡部駅の北東に位置し、遺跡の西半部は現在岡里団地となっている。

深谷市は、西端が本庄台地、西部が柳挽台地、南部が江南台地上にのり、東部から北部城は妻沼低地上に立地する。市の北端を利根川が東流し、南部を荒川が貫流する。

白山遺跡は、柳挽台地北端部からやや内陸部にかけて位置する。遺跡の中心から300m北は崖線となり、眼下には妻沼低地が広がる。

2. 歴史的環境

白山遺跡の立地する柳挽台地北部は、駅に近いことや国道17号線が通ることなどから早くから開発も進み、これに伴う発掘調査も多数実施してきた。その結果、縄文時代～中世に至る様々な遺構・遺物が検出されている。

縄文時代では、西谷溢跡から押庄繩文・爪形文土器などが検出され、草創期の土器として注目されてきた。遺構では、四十坂遺跡で前期の竪穴住居跡が、上宿遺跡で後期の敷石住居跡が検出されている。

弥生時代では、四十坂遺跡より縄文晚期～弥生初期の土器群が出土し、弥生初期のまとまった資料として早くから注目されてきた。その後、平成2年の発掘調査では、弥生土器を伴う再葬墓や土壙墓群が検出され、良好な資料の追加となった。

古墳時代に至ると、遺跡数は急増し、重要な遺構も多数確認されている。

四十坂遺跡からは、五領～和泉期に至る方形周溝墓群が検出され、この段階から後期群集墳まで連続と墳墓が営まれていたことが知られる。中でも四十塚古墳は、横切板鏡留短印・五鈴鏡板付轡などを出土し、これらの遺物から5世紀後半の当地域の首長墓と捉えられている。

その後、6世紀代には、やはり首長墓と想定される寅稻荷塚古墳（前方後円墳）が四十塚古墳群内に出現する。これ以降、首長墓は、お手長山古墳（帆立貝式古墳）、内出八幡塚古墳（円墳）、愛宕山古墳（方墳）と順次南東方向へ移動して築造されることが看取され、首長の系譜を窺い知ることができる。この他に、白山遺跡からは、6世紀代の古墳跡24基（円墳23、帆立貝式古墳1）が調査された。彈琴塚

輪や蓋を捧げ持つ巫女の埴輪など6体の人物埴輪が、ほぼ完全な形で出土したほか、多くの円筒埴輪や朝顔形埴輪も出土している。

なお、柳挽台地北部における古墳時代の集落は、現在のところ中宿遺跡など数か所が確認されているに過ぎない。この時代の集落は、妻沼低地に立地する砂田前遺跡・岡部条里遺跡や本庄台地上の六反田遺跡・大寄遺跡・宮西遺跡などがあり、柳挽台地以外に分布の中心がある。

奈良・平安時代になると、様相が一変する。それまで墓域として利用されてきた熊野遺跡内に、突如大集落が営まれる。これまでに162次に及ぶ調査が実施され、700軒を超える竪穴住居跡、150棟の掘立柱建物跡をはじめ、道路状遺構・大溝・石組戸戸・連房式鍛冶工房など特殊な遺構が多数検出された。また、円面鏡・帶金具・唐三彩の陶枕・刻字紡錘車・陶製仏頭・懸けカマドなど一般の集落では見られない貴重な遺物も多数出土している。

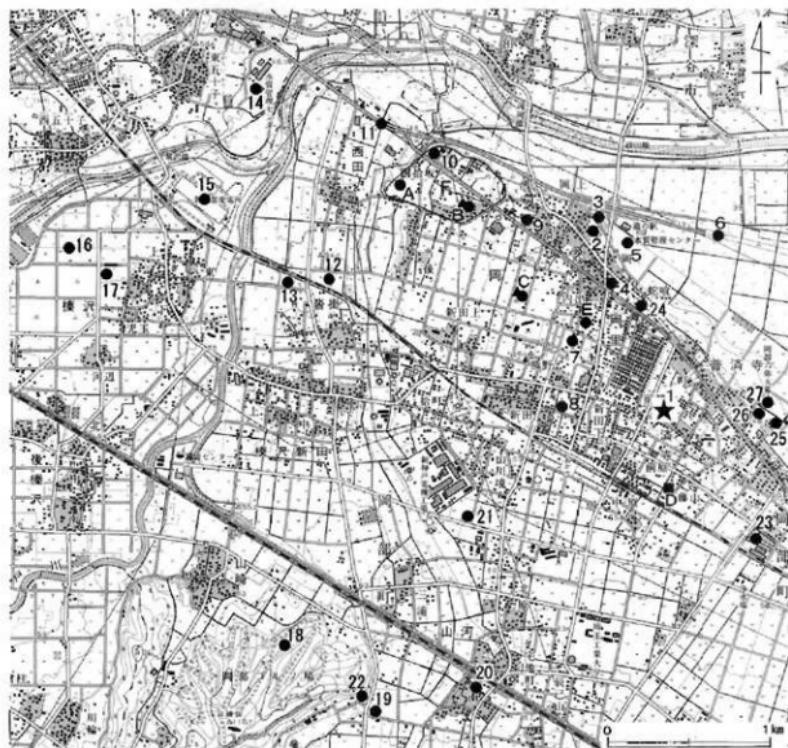
なお、集落の開始時期は、131次調査1・2号竪穴住居跡から出土した畿内産土器の年代観から、7世紀第3四半期と考えられている。1次調査では、この時期に該当する7間×3間の掘立柱建物跡をはじめとする大規模建物群が検出されており、初期評家の性格が与えられている。

また、柳挽台地縁辺部に立地する中宿遺跡からは、大規模な倉庫跡20棟が規則的に配置された状態で検出され、藤沢郡衙正倉跡と推定されている。

これらと前後して周辺の白山遺跡・岡遺跡・上宿遺跡・新田遺跡などにも集落が営まれるようになる。特に、熊野遺跡の北東に位置する岡遺跡は、8世紀第2四半期と考えられる蓮華文軒丸瓦などの瓦が大量に採集されていたが、近年の確認調査により、掘込み地業を伴う基壇状の遺構が検出され、近接する住居跡からは「寺」と墨書きされた土器も発見され、庵寺跡であることが確実となった。

このように、奈良～平安時代の柳挽台地北部は、中宿遺跡・熊野遺跡を中心として、その周辺に集落や寺院が展開していた状況が窺われる。

中世では、白山遺跡や熊野遺跡・西龍ヶ谷遺跡から方形に遡る溝跡が検出され、館跡に付属するものと推定されている。特に西龍ヶ谷遺跡では、軸を描いて並んだ6棟の掘立柱建物群が確認され、その企画性から在地有力者層の館跡と想定されている。



- | | | | |
|-------------|----------------------|--------------|---------------|
| 1. 白山遺跡 | (古墳群・律令期集落・中世居館) | 17. 西蒲北遺跡 | (圓文・古墳～律令期集落) |
| 2. 中宿遺跡 | (郡衙正倉・律令期集落) | 18. 千光寺遺跡 | (古墳群・平安集落) |
| 3. 高下遺跡 | (河川跡・律令期集落) | 19. 茶臼山遺跡 | (古墳群) |
| 4. 岡跡 | (寺院跡・古墳～律令期集落) | 20. 伝上杉館跡 | (中世) |
| 5. 岡部条里遺跡 | (古墳集落・条里水田・律令期居宅) | 21. 西龍ヶ谷遺跡 | (律令期集落・中世居館) |
| 6. 砂田前・鰐苗遺跡 | (古墳～平安集落) | 22. 西谷遺跡 | (圓文) |
| 7. 熊野遺跡 | (律令期集落・官衙・中世居館) | 23. 上原遺跡 | (圓文・古墳・奈良～平安) |
| 8. 新田遺跡 | (律令期集落) | 24. 墓東遺跡 | (古墳・律令期集落) |
| 9. 上宿遺跡 | (圓文・古墳～律令期集落) | 25. 伝岡部六赤太齋跡 | (鎌倉・南北朝) |
| 10. 四十坂遺跡 | (圓文集落・弥生再び墓・洞溝墓・古墳群) | 26. 菅原遺跡 | (圓文・古墳～平安・室町) |
| 11. 原ヶ谷戸遺跡 | (圓文・古墳集落・古墳群) | 27. 岡部六赤太齋 | (鎌倉～室町) |
| 12. 水庭遺跡 | (圓文・古墳集落・洞溝墓・古墳群) | A. 四十坂浅間山古墳 | (円墳) |
| 13. 新井遺跡 | (律令期集落) | B. 宮都荷塚古墳 | (前方後円墳) |
| 14. 東五十子遺跡 | (古墳・中世集落) | C. お手長山古墳 | (帆立貝式古墳) |
| 15. 六反田遺跡 | (古墳・中世集落) | D. 前原愛宕山古墳 | (方墳) |
| 16. 大奇遺跡 | (圓文・弥生～律令期集落) | E. 内出八幡塚古墳 | (円墳) |

第3図 周辺の遺跡分布

III 発見された遺構と遺物

1. 白山遺跡の概要

白山遺跡は、櫛挽台地北端部に展開する。遺跡の標高は55m前後であり、南西から北東に向かって緩やかな傾斜を有している。遺跡から北東へ約600mで台地縁辺部に達し、眼下には利根川及び小山川により開析された妻沼低地が開けている。沖積地との比高差は、約18m程度である。

遺跡はJR高崎線岡部駅の北東500mに位置し、国道17号線と県道経川普濟寺線に挟まれた範囲である。遺跡の西半部は岡里团地となっているが、東半部は民家と畠地の混在する地域である。

白山遺跡は、古墳群および奈良時代～中世にかけて営まれた複合遺跡である。初期評家と推測される熊野遺跡とは、埋没谷を挟み東に接する。

発掘調査は、工場建設に先立ち昭和15年に埼玉県教育委員会により実施されたのが始まりである。約7,000m²におよぶ調査の結果、奈良～平安時代の掘立柱建物跡4棟、竪穴住居跡8軒余りが検出され、多量の土器類や鉄製品が出土した。

47年には、团地造成に伴い1次調査地点の北側40,000m²の範囲が旧岡部町教育委員会により調査され、古墳跡24基（円墳23、帆立貝式1）、古墳～平安時代の住居跡5軒が検出された。古墳周溝からは、人物埴輪や馬形埴輪・器財埴輪をはじめとして、多枚の円筒埴輪などが出土した。なかでも巫女と想定される女性埴輪5体がほぼ完形で出土しており、平成9年には町指定文化財となった。また、中世の遺構では、方形に巡る溝をもつ館跡や掘立柱建物跡も検出された。

その後も、工場やアパート建設・個人住宅建築などに先立ち発掘調査が実施されており、現在まで8地点に及んでいる。

2. 発見された遺構と遺物

今回報告する第5次調査地点は、深谷市普濟寺字前耕地1391番地である。遺跡のはば中央に位置する。

発掘調査により検出された遺構は、奈良～平安時代に属すると考えられる掘立柱建物跡3棟、土坑1基、ピット群である。狭小な調査範囲のため、完掘できた遺構はなかった。

以下、順を追って詳述する。

1号掘立柱建物跡

調査区の東部に位置する。2号掘立柱建物跡と重複する。

建物の南部及び東部が調査区域外に延びているため全容は不明であるが、3間×2間以上の側柱建物と推測した。柱間は、桁行2.4m、梁行2.1mを測る。主軸方位は、N-93°-Eを示す。

柱穴は4基が検出され、いずれも円形を呈する。規模は、直径48～71cm、深さ48～65cmを測る。

遺物は、出土しなかった。

2号掘立柱建物跡

調査区の東部に位置する。1号掘立柱建物跡・例木痕と重複する。

建物の南部及び東部が調査区域外に延びているため全容は不明であるが、3間×2間の側柱建物と推測した。柱間は、桁行と梁行共に2.1mを測る。主軸方位は、N-93°-Eを示す。

柱穴は5基が検出され、平面形態は円形ないし梢円形を呈する。規模は、直径50～78cm、深さ22～60cmを測る。

遺物は、出土しなかった。

3号掘立柱建物跡

調査区の西部に位置する。

ピット2基のみの検出であるが、とりあえず建物跡と想定した。よって、規模や主軸方位等は、不明である。

柱穴は、いずれも円形を呈し、規模は径59cm、深さ23～41cmを測る。柱間は約2.1mである。

遺物は、出土しなかった。

1号土坑

調査区の西端に位置する。

平面形態は梢円形で、長軸82cm、短軸61cmを測る。壁は角度を持って掘り込まれ、底面は平坦である。確認面からの深さは、76cmを測る。

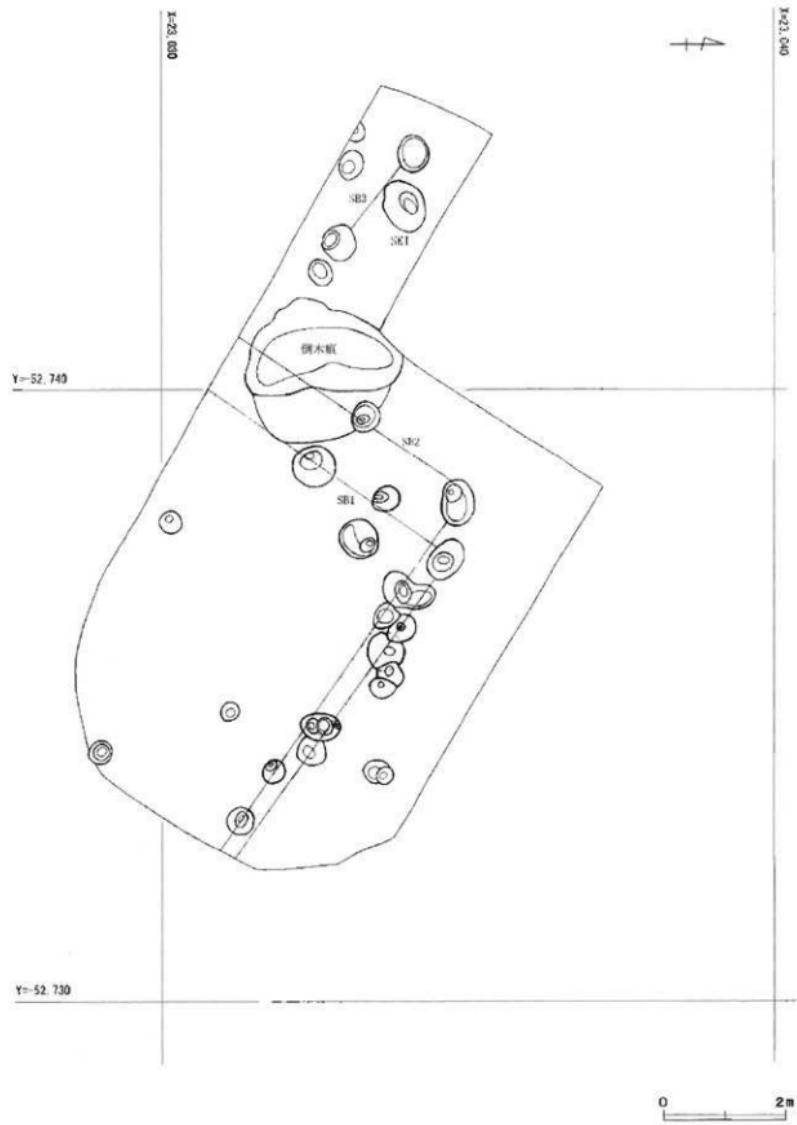
遺物は、須恵器長頸壺が覆土から出土した。

ピット群

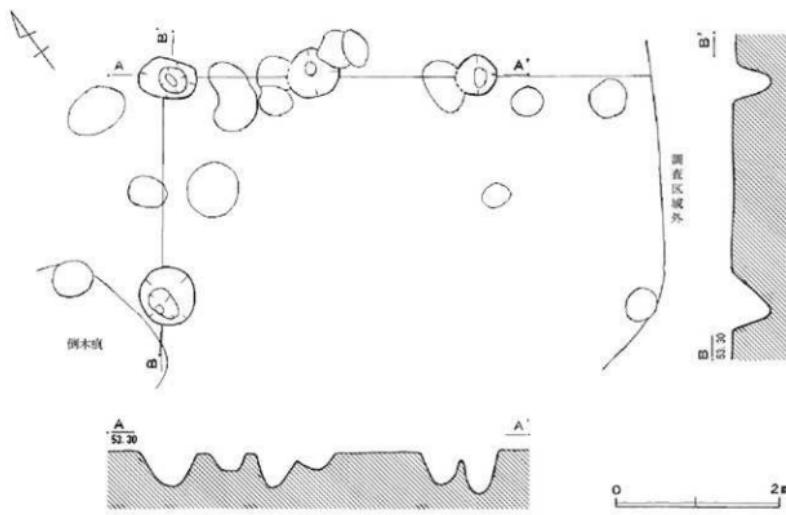
ピットは、15基が検出された。

平面形態は、いずれも円形を基本とする。規模は、直径32～91cm、深さ20～74cmを測る。

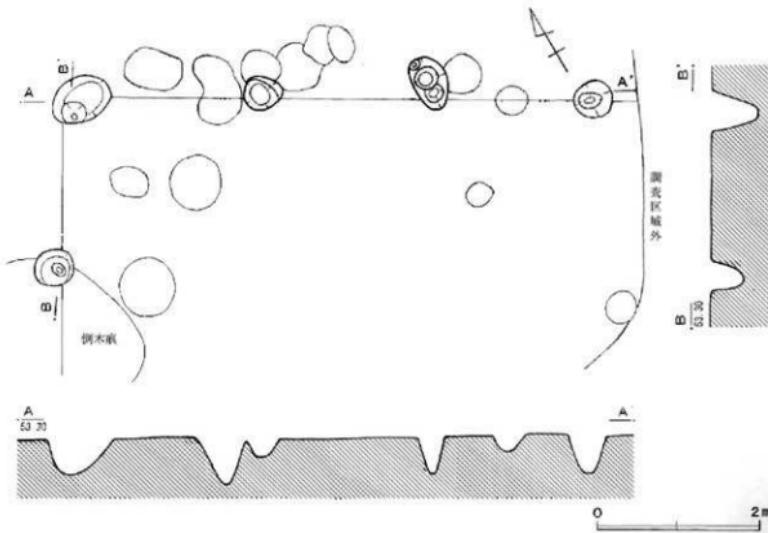
遺物は、出土しなかった。



第4図 白山5次調査全測図

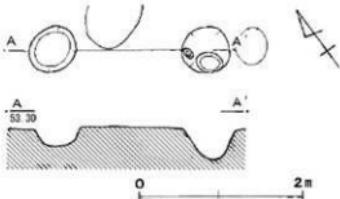


第5図 1号掘立柱建物跡実測図

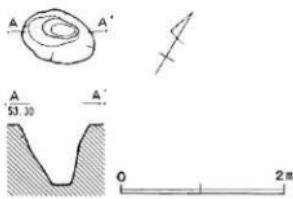


第6図 2号掘立柱建物跡実測図

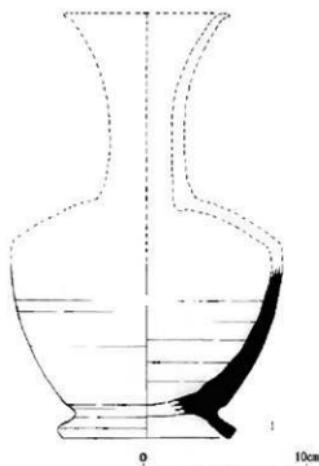
IV 調査成果のまとめ



第7図 3号掘立柱建物跡実測図



第8図 1号土坑実測図



第9図 1号土坑出土遺物実測図

1号ピット出土遺物観察表

番号	器種	口径(cm)	蓋高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	長頸瓶	~	10.8	10.2	灰褐色	良好	石英、長石	表示30%	未野

これまで述べてきたとおり、今回の調査では掘立柱建物跡3軒の検出であったが、狭小な調査範囲のため完掘できた遺構はなかった。

掘立柱建物跡からの出土遺物はなく、時期の確定は困難であるが、埋土の状態から古代に属すると推測される。なお、近接する1号土坑から須恵器の長頸瓶が出土した。時期は7世紀後半と考えられる。本調査において出土した唯一の遺物である。

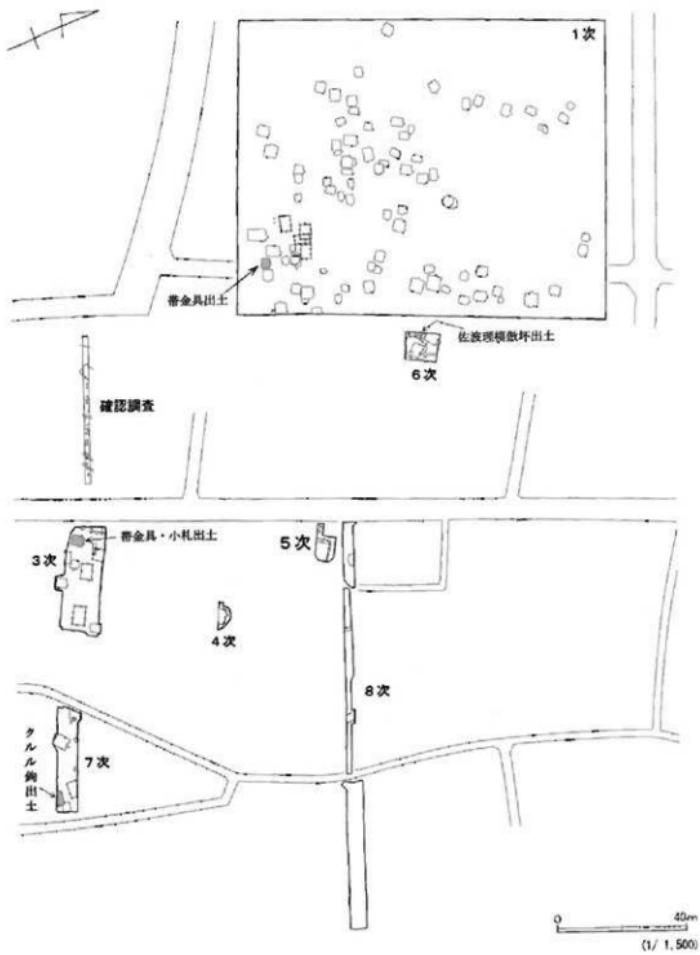
白山遺跡では、今までのところ、遺跡の西部において8次の調査を実施している。確認調査を含めると奈良～平安時代の堅穴住居跡100軒、掘立柱建物跡15棟余りが検出されている。遺物は、土師器・須恵器を主体に数多く出土しているが、特徴的な遺物も散見される。1次調査78号住居跡の帶金具、3次調査4号住居跡の帶金具と小札、6次調査5号住居跡の佐波理模倣倅、7次調査5号住居跡のクルル鉤などが挙げられる。帶金具は腰帯の付属金具であり、官人の身分の表示として採用されたものである。他の遺物に関しては官衙関連施設や寺院等で出土することが多い。

一方、遺構に関しては、堅穴住居跡と掘立柱建物跡などが混在し、各遺構の規模も突出したものではない。官衙関連施設と特定できるような遺構は、検出されていない。

しかしながら、本遺跡は西方の緩い埋没谷を挟み榛沢群家と推定される熊野遺跡と接している。同遺跡は7世紀第3四半期から開始され、10世紀代まで継続していることが判明している。

こうしたことから、白山遺跡は官人層の居宅域と推測される。

そして、本調査で検出された3基の掘立柱建物は、この1画を占めるものであろうか。



第10図 白山道路5次調査区周辺遺構図

写 真 図 版

図版 1



白山遺跡 5次調査全景



1号土坑出土遺物

報告書抄録

ふりがな	しろやまいわき								
書名	白山遺跡III								
調査名									
シリーズ	深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書								
巻次	第87集								
編著者名	宮本直樹・竹野谷俊夫								
編集機関	深谷市教育委員会								
所在地	〒366-0823 埼玉県深谷市本住町17-3番地 TEL. 048-572-9581								
発行日	平成19年3月30日								
しよもれいわき 所収遺跡	しよもれいわき 所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因	
しよもれいわき 白山遺跡 (5次調査)	さいたまけんふかわいじゅくさいとう 埼玉県深谷市普済寺 あさくらこじゅうじ 宇前耕地1391-1 他	市町村 11218	遺跡 63-008	36° 12' 22"	139° 14' 48"	平成7年11月27日から 平成7年12月15日まで	240m ²	事務所 建設	
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項			
集落跡 官衙跡 居館跡	奈良～ 平安時代	楕立柱建物跡 土 坪 ピット		須恵器					

白山遺跡Ⅲ

2007年3月30日

編集発行 ●深谷市教育委員会
埼玉県深谷市本住町17番地3